

CONTENTS

- ▶ 今年度の研究について（理論研究）
- ▶ 令和7年度研究委託校・実践校の紹介 ▶ 5分間ミニ研修

今年度の理論研究について

胆振教育研究所では様々な事業を行っています。今回は「**理論研究に基づく実践研究**」について紹介します。

1 研究主題

一人一人の子供を主語にする授業づくり

（令和6～8年度 3年計画）

2 今年度の研究内容

- 「一人一人の子供を主語にする授業づくり」の具体的な実践例
- 学びを支える学習環境

今年度は、理論研究に基づく実践研究を中心に記載していきます。従前の「教師主導」「一斉指導」から、「子供が学習の主体者」となる授業への転換を図り、全ての子供の可能性を引き出す「一人一人の子供を主語にする授業づくり」の推進のヒントが必ず掴めるはずです。

2月末に発行予定です。ご期待ください！！

<令和6年度理論研究>

「一人一人の子供を主語にする授業づくり」

ご活用ください。

- 一人一人の子供を主語にする授業づくりが求められている背景から学べます。
- これからの教師の在り方、求められる資質・能力について理解を深めることができます。
- 一人一人の子供を主語にする授業のスタイルをつかむことができます。



令和6年度理論紀要 http://www.iburi-education.jp/data/r6_kyoikuriron.pdf



研究委託校・実践校

今年度、胆振教育研究所と共同で研究を進めていただく、研究委託校と実践校が決まりましたので、その研究の概要をお知らせします。

公開研究会を実施する学校もありますので、先生方の研修の機会として研究会に多くの方が参加していただけると幸いです。

研究委託校 一覧

洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校

校長 柴田 暦章
研究委員 山内 秀介

7月18日(金)

主体的に学び、表現できる児童の育成
～個別最適な学びと
協働的な学びを通して～

研究領域 全教科

白老町立虎杖小学校

校長 田中 研吾
研究委員 成田 深結

11月26日(水)

わかった・できたと感じ、
考えを広げられる児童を目指して
～児童の実態に応じた学習指導の
改善と工夫を通して～

研究領域 全教科

豊浦町立豊浦小学校

校長 宮村 直人
研究委員 八木 啓太

今年度予定なし

理由や根拠を示しながら、自分の考え
や思いを伝えることができる子の育成
～個別最適な学び・協働的な学びの
一体的な授業実践を通して～

研究領域 全教科

壮瞥町立壮瞥小学校

校長 清水 卓
研究委員 安住 理歌

今年度予定なし

子どもに委ねる ゆるく 深い学び
～自立した学習者を育成するための
授業改善～

研究領域 全教科

安平町立追分小学校

校長 関東 英政
研究委員 山田千亜紀

今年度予定なし

自ら考え、表現する子どもの育成

研究領域 全教科

厚真町立厚南中学校

校長 小林 博幸
研究委員 池淵賢太郎

今年度予定なし

自ら学び、判断し、表現する生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの
充実化を目指して～

研究領域 全教科

むかわ町立鵜川中央小学校

校長 松尾 康
研究委員 丹保 直也

今年度予定なし

自走する子供の育成
～見通し・振り返りを通した子供に
委ねる授業づくり～

研究領域 国語科

登別市立青葉小学校

校長 北尾 稔
研究委員 松井 亮太

今年度予定なし

確かな学力や学ぶ楽しさにつながる
個別最適な学びと協働的な学びの一体
化

研究領域 算数科

伊達市立大滝徳舜啓学校

校長 阿部 隆之
研究委員 長谷川 純

11月13日(木)

主体的に学び、挑戦する力を育む
～自立した学習者を育てる
授業づくり～

研究領域 全教科

研究実践校 一覧

むかわ町立鵜川中学校

校長 宮田 真基
研究委員 白戸 信吾

今年度予定なし

主体的・対話的で深い学びを実現する生徒の育成
～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な
学びの一体的な充実による授業改善を通して～

研究領域 全教科

白老町立白翔中学校

校長 前田 直樹
研究委員 神谷 和宏

今年度予定なし

つながる探究型学習—基礎力・応用力、
そして学習意欲の上昇を目指して

研究領域 全教科
総合的な学習の時間

※日付は、公開研究会の日程です。



「主体的な学びを支援する 伴走者」

「一人一人の子供を主語にする授業」を実現するためには、教師が「教える」授業から、子供が自ら「学ぶ」授業への転換が求められます。この授業観の転換にともない、教師が授業で果たす役割も変わってきています。今回のミニ研修では、伴走者に必要な「ティーチング」「コーチング」「ファシリテーション」の3つのスキルについてご紹介します。

ス キ ル	メリット(活かせる場面)	デメリット(注意が必要な点)
ティーチング (知識・技能の系統的指導)	- 内容を体系的に整理して教えられる - 学習の基礎基本を全員に定着させやすい - 時間管理がしやすい	子供が受け身になりやすい - 個々の興味関心に寄り添いにくい - 探究的な学びが生まれにくい
コーチング (対話を通じた目標支援)	- 子供の主体性・自律性を引き出せる - 内発的動機付けを高められる 自己決定力を育成できる	- 信頼関係の構築に時間がかかる - 教師のスキルが高度に必要 短時間で全員を見る場面には不向き
ファシリテーション (学び合いの場づくり)	子供同士の学び合いを促進できる - 多様な意見の共有・尊重が進む 合意形成や問題解決力の育成に有効	- 発言力に偏りが出やすい - 場の進行・中立性が必要 学級の土台づくりが前提

出典「胆振教育研究所、令和6年度教育理論. p20」

このように、それぞれのスキルにはメリットデメリットが存在します。どれか一つだけが重要なのではなく、全てが重要と分かります。私たちが、目の前の児童の発達段階や特性に合わせてパズルのようにスキルを組み合わせる指導をしていくことが求められています。

今年度の研究では、学び合いの場づくりの根幹である学級経営について調査研究を深めていきます。夏季研修講座でも「一人一人の子供を主語にする授業」を実現する学びの場づくりについて学ぶことができます。ぜひ、たくさんのご参加をお待ちしております。

